

CONTENTS

□ 新年のごあいさつ	1
□ 第47回全国土地改良大会佐賀大会	5
□ 農業農村整備事業の推進に関する県知事他への要望	6
□ 農業農村整備の集い	7
□ 国へ予算や制度拡充を要請	9
□ 令和8年度 農林水産予算概算決定の概要	10
□ 令和7年度 第4回監事会	11
□ 令和7年度 第3回理事会	11
□ 第69回 通常総会の開催について（予定）	11
□ 令和7年度 土地改良相談の概要	12
□ 令和7年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要	13
□ 男女共同参画推進大会inくまもと	15
□ さいたま水土里ネット女性の会 現地研修会	16
□ 水土里ネット職員研修会	17
□ 2025ため池フォーラムinひろしま	18
□ 「2025 彩の国 食と農林業ドリームフェスタ」開催結果	19
□ 第13回「彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト」	20
□ 金利改定	24
□ 連合会日誌	24

埼玉の土地改良

収穫の秋（秩父郡横瀬町）



新年のごあいさつ

水土里ネットさいたま
埼玉県土地改良事業団体連合会
会長 三ツ林 裕 己



明けましておめでとうございます。会員の皆様には清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より、本会の運営並びに農業農村整備の推進に格別のご支援、ご協力を賜り心より感謝と敬意を表します。

本年の干支は「午・ウマ」であります。古来よりウマは、俊敏さと持久力を兼ね備え、広い大地を駆け抜ける力強さの象徴とされてまいりました。また、人とともに農耕の発展に寄与してきた歴史を持つ、まさに農業に縁深い動物であります。私たちの取り組む土地改良事業もまた、土地と水を守り、地域の暮らしと農業の未来を“力強く前へ進める”役割を担っており、この一年をより確かな歩みを進める一年とすべく、決意を新たにす次第です。

昨年は「令和の米騒動」とも呼ばれる事態が生じ、消費者のみならず生産現場にも大きな影響が及びました。食料の安定供給を当然視してきた我が国にとって、今回の状況は大きな警鐘であり、その脆弱性を改めて浮き彫りにしたものとと言えます。農地や水利施設の保全、生産基盤の強化が、単なる農業の問題ではなく、社会全体の安心と持続性に直結していることを、私たちは再認識しなければなりません。

安定生産を支える用排水施設の維持管理、老朽化対策、ほ場整備等による生産性向上、気候変動に備える強靱な地域づくりなど、いずれも食料安全保障の根幹に関わる使命であります。農業の持続性を確かなものとし、次世代へ引き継ぐためには、土地改良事業の役割を強化し、不断の改善を重ねることが不可欠であります。

また、昨年は土地改良法が改正され、担い手の減少や農地の集積・集約化、気候変動への対応など、農業・農村が抱える喫緊の課題に因應するため、土地改良事業の円滑な推進や組織運営の効率化、地域の主体的な取組支援に向けた制度の見直しが図られました。

人口減少や担い手不足が進む中で、土地改良区の運営手法や施設管理のあり方を見直し、より効率的で持続的な体制を構築することが求められております。今回の改正では、地域の農業水利施設の保全に関する措置として、土地改良区が市町村その他の関係者と施設の保全に関する将来像を共有し、連携して取り組んでいけるよう「連携管理保全計画」（通称：水土里ビジョン）を作成し、知事の認可を受けて、基幹から末端施設までを含めて保全を行う仕組みが創設されています。

本会としても、県内の全土地改良区、市町村と連携しながら、制度改正の趣旨を最大限に活かし、実務面での支援や研修の充実、技術指導體制の強化を進めてまいります。

令和8年の新春を迎え、ウマ年の勢いにあやかり、本会役職員一丸となって、会員の皆様と力を合わせ、実りある一年を築いてまいりたいと考えておりますので、引続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本県農業農村の発展と、会員並びに関係皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

「埼玉の未来を築く更なる挑戦」

埼玉県知事 大野 元 裕



明けましておめでとうございます。

埼玉県土地改良事業団体連合会の皆様におかれましては、本県の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

初めに、昨年1月に八潮市で発生した道路陥没事故でお亡くなりになられた方の御冥福をお祈りするとともに、御家族、関係者の方々にお悔やみを申し上げます。

また、地域の皆様には、多大なる御不便、御迷惑をお掛けし、心からお詫び申し上げますとともに、様々な御協力に感謝を申し上げます。

大規模下水道は上水道と異なり止めることができない上に、更新や点検・調査の手法が確立していないなど、今回の事故で判明した様々な課題を提言し、未然防止対策を国と共に進めてまいります。

さて、本県は「人口減少・超少子高齢社会の到来」と「激甚化・頻発化する自然災害などへの危機対応」という歴史的課題に直面しています。活力あふれる埼玉の未来を築くには、これらの課題に敢然と立ち向かう中長期的な施策の実行が必要です。

例えば、企業の価格転嫁をきめ細かく支援する地域連携の取組は「埼玉モデル」として全国から高い評価を得て、41都道県に拡大しています。今年も本県が全国の持続的な経済構築をリードしていきます。

労働生産性の向上のため、社会全体のDXの推進や渋沢MIXを中心としたイノベーション創出などの取組を進め、県庁もデジタルを前提に仕事のやり方を根本から見直します。

「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」による持続可能なまちづくりや、医療・福祉人材の確保、サーキュラーエコノミーの推進などとともに、県土の強靱化や「埼玉版FEMA」など危機への備えも深化させます。

さらに、「こどもまんなか社会」を目指す取組をはじめ、「あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会」の実現を確かなものにします。

今年11月には「ねんりんピック」を本県で初開催します。また、本県のいちごや梨などが全国で高い評価を得ている中、今年は県育成の最も新しいお米「えみほころ」の本格生産も始まります。

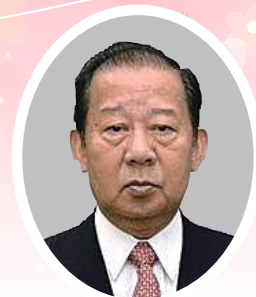
農業農村整備の分野におきましては、生産性向上に向けた取り組みとして、地域計画と連携した基盤整備を進めるとともに、農業・農村の国土強靱化に向けた防災・減災の対策として、ため池や堰の耐震化、農業水利施設の整備を実施してまいりました。

引き続き、農業農村整備に全力で取り組んでまいります。農地や農業水利施設の管理を担い、県土の発展を支えてきた貴連合会の皆様のお力添えが不可欠ですので、一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年「午（うま）」年です。埼玉県が未来に向けて力強く前進する年となるよう皆様と共に「ワンチーム埼玉」で取り組んでまいります。

年頭あいさつ

全国水土里ネット
全国土地改良事業団体連合会
会長 二階俊博



令和8年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より、農業農村整備事業の推進に対し、関係各位の格別の御理解と御支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国各地で記録的な猛暑や集中豪雨など、気候変動の影響が一段と顕著となり、皆様の地域にも大きな影響を及ぼしたのではないかと存じます。

豪雨等により被害を受けられた地域の皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

いま、国際社会は、地球規模で頻発する異常気象や世界的な物価高騰などの諸問題に直面しています。一方、我が国の農業・農村は、農業者の高齢化や減少により、農業の継続やそれを支える農地や農業用水の保全管理が困難になるなどの課題を抱えるなど、農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの様々な問題の解決のために、食料・農業・農村基本法や土地改良法の改正が行われ、そして、新たに策定された土地改良長期計画に基づき、令和7年度から11年度までの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとなりました。

競争力のある農業を支える「大区画ほ場整備」や「スマート農業に対応した基盤整備」、また、「中山間地域におけるきめ細かな整備」をスピード感を持って進めていかなければなりません。

本年の干支は「午」ですが、“前進”“飛躍”の年とされています。まさに地域農業が新たな局面へ踏み出す一年となりますことを願うところであります。

令和8年度農業農村整備事業関係予算 政府原案においては、農業構造改革を集中的に進めるため、4,504億円が計上され、令和7年度補正予算を加えると6,942億円となります。

皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかにお過ごしになられますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進 藤 金日子



あけましておめでとうございます。埼玉県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係の皆様には、私の政治活動にご理解とご支援を頂戴し、厚く感謝申し上げます。本年も現場主義、地域主義に徹し、農業農村の振興に努めてまいりますので、よろしくご指導をお願い致します。

さて、去年は、農政、国土強靱化、我が国経済にとって節目の年であったと考えています。土地改良法改正、食料・農業・農村基本計画の策定、農業構造転換集中対策の開始、新たな土地改良長期計画と第一次国土強靱化実施中期計画も策定されました。10月に高市早苗内閣が発足し、日本経済強靱化計画（通称サナエノミクス）が提唱され、我が国の経済転換の期待も広がっています。

3月の土地改良法の改正では、農業生産の基盤の整備に加えて保全に必要な施策を講ずることが明定され、土地改良区が市町村等と連携していわゆる水土里ビジョンを作成し、土地改良施設及び末端施設の保全を行う仕組みを位置付けました。

4月に策定された食料・農業・農村基本計画では、令和7年度からの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとし、「農地・水の確保」、「地域計画に基づく担い手への農地集積・集約化」、「農地の大区画化」等に関し具体策を位置付け、また、「食料システム全体で合理的な費用を考慮した価格形成を推進」することも位置付けました。自民党は、基本計画の実施に関して別枠予算の確保を求め、私はこれらの事業規模の積算を託され、実務的に2.5兆円の積み上げを行いました。

9月には新たな土地改良長期計画が策定され、「基盤整備による生産コストの低減」、「農業水利施設の戦略的な保全管理による持続的な機能確保」、「激甚化・頻発化する災害に対応した防災・減災対策」等に関する5つの目標を設定しました。

6月には第一次国土強靱化実施中期計画が策定され、令和8年度から令和12年度に推進が特に必要となる施策目標を設定、5年間の事業規模を「おおむね20兆円強程度」を目途としました。土地改良では、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、農業水利施設等の老朽化・耐震化対策などを進めることとしています。

11月には、総合経済対策が閣議決定され、食料安全保障の確立、防災・減災・国土強靱化等を推進していく上で必要な対策と予算が盛り込まれ、土地改良関係では2,439億円が措置されました。

これらの政策を進めるためには土地改良の推進が重要です。特に農業構造転換集中対策期間の5年間では別枠予算も確保して強力に進めていく必要があります。令和8年度に執行可能な土地改良予算は、令和7年度補正2,439億円と令和8年度概算決定4,504億円の合計6,942億円（昨年比442億円増）となっています。予算のスムーズな執行に対する貴連合会による技術支援とご協力をお願いいたします。私は本年も土地改良の推進のため努力してまいりますので、皆様方からの益々のご指導、ご支援をお願いし、新年のご挨拶と致します。

第47回全国土地改良大会佐賀大会

第47回全国土地改良大会が去る10月15日（水）、佐賀県佐賀市の「SAGAアリーナ メインホール」において、「水を利用して土を活かす さがで語ろう郷里の未来」をテーマに、全国から農業農村整備事業関係者約4,500名が参集した。新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、総力をあげて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的として開催された。

式典では、開催県である佐賀県土地改良事業団体連合会田島健一会長の開会挨拶に続き、主催者の全国土地改良事業団体連合会二階俊博会長の挨拶があった。さらに、佐賀県の山口祥義知事、佐賀市の坂井英隆市長、佐賀県議会の宮原真一議長から歓迎の挨拶があった。続いて、来賓祝辞として、青山健治農林水産省農村振興局長次長より小泉進次郎農林水産大臣の祝辞の代読、大串博志衆議院議員、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子参議院議員よりそれぞれお祝いを述べられた。

次に、土地改良事業功績者表彰として、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰44名に表彰状と記念品が授与され、本県からは、荒川右岸用排水土地改良区の内田光夫理事長が農林水産省農村振興局長表彰を、西吉見南部土地改良区の金子正夫理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞された。

基調講演では、「次世代へ、希望をつなぐ土地改良」と題して、青山健治農村振興局長次長より土地改良をめぐる情勢について説明があった。

その後、優良事例地区として、白石土地改良区の久原英之主事、江口功汰主事から「白石地域の農業農村の将来に向けて-白石土地改良区の変遷-」について事例紹介がされた。

最後に、鹿島土地改良区の宮崎憲治理事長と佐賀東部土地改良区の中原忍管理課長、佐賀県土地改良事業団体連合会の土井楓技師による大会宣言が朗読され、次期開催県である奈良県へと大会旗が引き継がれ閉会となった。

翌日は、佐賀県にある、国営土地改良事業城原金立線揚水機場の事業視察を行った。



埼玉県内参加者

農林水産省農村振興局長表彰



内田 光夫 氏

荒川右岸用排水土地改良区理事長
埼玉県土地改良事業団体連合会理事

全国土地改良事業団体連合会会長表彰



金子 正夫 氏

西吉見南部土地改良区理事長
埼玉県土地改良事業団体連合会代表監事

農業農村整備事業の推進に関する県知事他への要望

本会の三ツ林会長、原田副会長、坪井副会長代理の横田参事（見沼代用水土地改良区）、稲場常務理事らは、去る11月17日、埼玉県の大野知事、堀光副知事、山崎副知事、竹詰農林部長、西澤農村整備課長と面会した。

私たちの命を支える食料を安定的に確保していくために、農業生産基盤の整備・保全是もちろん、農村における所得の向上や雇用機会の創出、農村環境の確保、頻発する異常気象や今後想定される大規模地震に備えた農業・農村の強靱化が必要だと、令和8年度予算編成にあたり下記の3項目を重点的に要望した。加えて、将来を見据えた農業水利施設の管理における合意形成（水土里ビジョン策定）へのサポート、農業用水を身近に感じてもらえるべく県民への積極的なPR、見沼代用水開削300周年行事に向けた支援、葛西用水路土地改良区が目指す『世界かんがい施設遺産登録』に対する協力をお願いした。



（左から）稲場常務理事、横田参事、三ツ林会長、大野知事、原田副会長

【大野知事】

「県5か年計画では“儲かる農林業の推進”、“災害・危機に強い埼玉の構築”、“豊かな自然と共生する社会の実現”を指針に位置付けている。今回要望のあった、農業の根幹となる農業用水を供給する農業水利施設の計画的な補修・更新にはしっかりと取り組む。また、頻発化、激甚化する自然災害に備え、防災重点農業用ため池の防災減災対策や農業集落排水施設の老朽化に伴う補修・更新も引き続き支援していきたい。皆様の活動の充実が県の発展につながる。ご要望については予算編成の作業の中で検討する。引き続き埼玉県の農業振興に、より一層のご支援・ご協力を賜うようお願い申し上げます。」と力強い言葉をいただいた。

◆重点要望事項

- 1 農業水利施設の計画的な補修・更新
- 2 農業用ため池の防災・減災対策の推進
- 3 農業集落排水施設の更新支援

説明用パネル

農業農村整備の集い

— 農を守り、地方を創る予算の確保に向けて —

去る11月26日シェーンバッハサポーター（千代田区永田町）において、令和7年度補正予算及び令和8年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が開催され、国会議員（約50名）を含むおよそ1,200名の土地改良関係者が全国から駆けつけた。

開会にあたり、二階俊博全国水土里ネット会長から「食料安全保障を確保するために、農業の構造転換を集中的に進めていくことが重要。既存の土地改良予算に加え、農地の大区画化や水利施設の整備、中山間地域対策を進めるための別枠予算を確実に確保するため、我々土地改良団体もしっかりと取り組んでいかなければならない。我々のスローガンである“闘う土地改良”のもと、関係国会議員のお力添えをいただき、一丸となって予算を勝ち取っていく戦いを続けて行こう。」と挨拶があった。

また、来賓の鈴木憲和農林水産大臣から「高市早苗総理大臣からも、すべての田畑をフル活用するようにとのご指示をいただいている。先の見通せる農政を実現するのが私の役割。物価上昇の分も十分に加味した予算の確保を全力で努力する。皆さんと共に取り組んでまいりたい。」とのほか、城内実日本成長戦略担当大臣、自民党の森山裕食料安全保障強化対策本部長及び宮下一郎総合農林政策調査会長からの祝辞に続き、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問より力強い挨拶があった。

続いて、全国土地改良大会の令和8年度開催県である水土里ネット奈良の菅谷義寛常務理事が要請書を朗読し、満場の拍手をもって全会一致で採択された。

最後に、水土里ネット奈良の上田美加子理事らによる力強い「ガンバロウ三唱」の発声と盛大な拍手をもって、盛会裡に閉会となった。

閉会后、本県からの参加者らで、本県選出の国会議員へ要請活動を行った。



二階俊博会長の挨拶



鈴木憲和農林水産大臣の挨拶

要 請 文

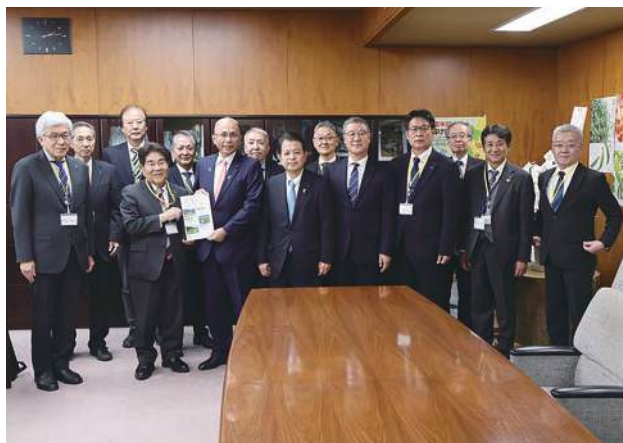
- 一 食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画に基づき初動5年間で農業の構造転換を集中的に実施するとともに、国土強靱化実施中期計画に基づいた取組を一層推し進めるため、農業・農村を支え、守り、我が国の食料安全保障の確保に欠かせない土地改良事業をスピード感を持って推進できるよう、当初及び補正予算とあらゆる機会において、別枠を含めた必要な予算をしっかりと確保すること。その際、地方公共団体の負担軽減のための一層の支援策を講じること。
- 二 土地改良法の改正を受けて、制度の趣旨及び内容の十分な浸透を図ること。また、水土里ビジョンの作成を始めとする農地・農業用水等の地域資源を次世代につなごうとする土地改良区や土地改良事業団体連合会、市町村等の取組への支援や地方財政措置の充実を図ること。
- 三 国内の農業生産の増大と食料自給力の確保のため、地域計画に基づく担い手への農地の集積・集約化、高収益作物の生産拡大、麦・大豆等の本作化、スマート農業の導入やほ場周りの管理の省力化を促し生産性向上に資する大区画化、中山間地域におけるきめ細かな整備等の農地整備と情報通信環境の整備を推進すること。
- 四 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めるとともに、農地復旧についての農家負担の軽減に配慮すること。併せて、農村地域の国土強靱化のため、基幹から末端に至るまでの農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を推進すること。
- 五 自然的、社会的、経済的な情勢変化を踏まえ、高い公共性・公益性を有し、食料の安全保障の確保に貢献している土地改良施設の維持管理に対する支援を充実させること。
- 六 農村地域を支えている多面的機能支払や中山間地域等直接支払について、活動組織の体制強化や支援範囲の拡大等を図るため、更なる制度の拡充及び必要な予算の確保を行うこと。
- 七 ICT、AI 等を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、中小規模の土地改良区を対象とした合併など、食料安全保障を支える土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。
- 八 上記事項の推進に当たり、発注体制や施工業者の受注環境の整備等の事業の執行体制の充実を図るとともに、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

国へ予算や制度拡充を要請 (関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会)

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会は、藤原忠彦会長（長野県土連）進行のもと、去る11月12日、関東農政局の石井克欣次長ほか幹部らと意見交換を行った後、農林水産省の根本幸典副大臣や財務省の中谷真一副大臣、進藤金日子参議院議員らに農業農村整備事業推進に関する要請活動を行った。

要 旨

- 1 農業農村整備事業予算について、地域からの強い要請に十分対応できるよう、令和8年度当初予算において、さらなる充実を図ること。併せて、令和7年度補正予算を確実に確保すること。
- 2 経済財政運営と改革の基本方針2025【骨太方針】にうたわれた「農林水産業の構造転換による成長産業化及び食料安全保障の確保」など農業農村整備事業に係る施策を確実に実施するための予算を別枠で確保すること。
- 3 収益性の高い農業による所得向上を実現するため、担い手への農地集積・集約化、大区画化や水田の汎用化・畑地化、スマート農業の導入等につながる基盤整備事業を推進すること。
- 4 農業において重要な役割を担っている中山間地域において、実状に応じたきめ細やかな農地整備や水利施設整備を総合的に支援すること。
- 5 被災した農地・農業水利施設の復旧対策や再度災害防止の取組を迅速に講じること。あわせて、農村地域の国土強靱化を図るため、基幹から末端に至る農業水利施設の長寿命化、豪雨・耐震化対策や洪水被害防止対策等を着実に推進するとともに、近年のエネルギー価格高騰下においても安定的な用水供給が可能となる対策を講じること。
- 6 農業・農村が有する多面的機能をしっかりと次世代に引き継ぐため、今後、農業従事者が急速に減少しても農地や水路、農道の保全活動等が適切に実施できるよう、多面的機能支払制度への十分な支援を図ること。
- 7 連携管理保全計画（水土里ビジョン）を円滑に策定できるよう国、県は支援・協力・助言等を積極的に行うこと。
- 8 農業農村整備事業の実施に当たっては、事業実施に係る農業者、地方公共団体の負担を軽減するため、補助率の嵩上げ、地方財政措置を手厚くすること。また、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、土地改良区の組織運営基盤強化に対する支援を継続すること。
- 9 上記事項の実施に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。



根本幸典農水副大臣への提案



中谷真一財務副大臣への提案

令和8年度 農林水産予算概算決定の概要

令和8年度予算の政府案が昨年12月26日（金）に閣議決定された。

農林水産予算総額は別表のとおり2兆2,956億円（対前年比100.1%）を計上。このうち農業農村整備事業概算決定額は、3,365億円（対前年比101.0%）となっている。

令和8年度農林水産関係予算の骨子

総括表

区 分	7年度 予算額	8年度 概算決定額	7年度補正 追加額
	億円	億円	億円
農林水産予算額 (対前年度比)	22,706 -	22,956 101.1%	9,602
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,966 -	7,026 100.9%	4,290
一般公共事業費 (対前年度比)	6,786 -	6,846 100.9%	3,394
災害復旧等事業費 (対前年度比)	180 -	180 100.0%	896
2. 非公共事業費 (対前年度比)	15,741 -	15,931 101.2%	5,312

- (注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

公共事業費一覧

区 分	7年度 予算額	8年度 概算決定額	7年度補正 追加額
	億円	億円	億円
農業農村整備 (対前年度比)	3,331	3,365 101.0%	2,165
林野公共 (対前年度比)	1,880	1,899 101.0%	863
治山 (対前年度比)	625	628 100.5%	340
森林整備 (対前年度比)	1,256	1,271 101.2%	523
水産基盤整備 (対前年度比)	731	738 101.0%	339
海岸 (対前年度比)	81	81 100.0%	28
農山漁村地域整備交付金 (対前年度比)	762	762 100.0%	-
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,786	6,846 100.9%	3,394
災害復旧等 (対前年度比)	180	180 100.0%	896
公共事業費計 (対前年度比)	6,966	7,026 100.9%	4,290

- (注) 1. 金額は、関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. 農業農村整備事業関係予算は、6,942億円。その内訳は以下のとおり。
・農業農村整備事業 3,365億円
・農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分 584億円
・非公共の農業農村整備関連事業 554億円（農地耕作条件改善事業、大区画化等加速化支援事業、農業水路等長寿命化・防災減災事業、畑作等促進整備事業、農業生産基盤情報通信環境整備事業及び農山漁村振興交付金）
・7年度補正額（農業農村整備事業及び非公共の農業農村整備関連事業） 2,439億円

令和7年度 第4回監事会

本会は11月10日（月）、令和7年度第4回監事会を理事会に先立ち、本会中会議室において開催した。

【第4回監事会議事】

議案第1号 令和7年度第2回収支補正予算（案）
の承認について



監事会の様子

令和7年度 第3回理事会

本会は11月10日（月）に令和7年度第3回理事会を本会大会議室において開催した。次の議事について審議し、原案通り可決された。

【第3回理事会議事】

議案第1号 令和7年度第2回収支補正予算(案)
について
報告事項（1）第132条検査の結果について
報告事項（2）令和7年度収支状況について
（令和7年9月末現在）



理事会の様子

第69回 通常総会の開催について（予定）

日時 令和8年3月23日（月） 午前10時から

場所 埼玉県県民健康センター 大ホール

お問合せ先 水土里ネットさいたま 総務部総務課 TEL 048-530-7335

令和7年度 土地改良相談の概要

土地改良区機能強化支援事業 施設・財務管理強化対策において実施した「土地改良施設の管理等に関する苦情・紛争等の対策」の土地改良相談について、本年度は延べ71件の相談が寄せられ、うち2件については弁護士への法律相談を行った。

(R7.12.25時点)

相談区分	改良区	市町村	その他	計	備考
①土地改良事業に関する苦情・紛争等への対応	0	1	0	1	
②土地改良事業計画の作成、工事の実施に関する指導	5	13	0	18	
③事業主体の組織運営上の指導	15	0	0	15	
④土地改良施設の管理に関する指導	8	3	0	11	2
⑤農業水利に関する指導	0	1	0	1	
⑥土地改良法に関する指導	0	3	0	3	
⑦換地処分その他農用地集団化に関する指導	0	0	0	0	
⑧複式簿記会計	0	0	0	0	
⑨指導監査の導入	0	0	0	0	
⑩非補助土地改良事業の推進活動	0	0	0	0	
⑪その他	11	11	0	22	
	39	32	0	71	2

※備考欄数値：計のうち、弁護士への法律相談を行った件数

◎土地改良相談について

当会では、土地改良事業の実施や運営等に精通した職員を相談指導員として配置しています。また、近年の複雑化・高度化する相談等に対応するべく必要に応じて、弁護士への委嘱体制を整えています。お気軽にご相談下さい。

◆相談方法

文書による依頼を原則としますが、口頭又は電話等でも構いません。適宜、受け付けていますので、下記の相談指導員へお問い合わせ下さい。相談料は原則として無料です。

専門家への相談の必要があると判断された場合または相談者が弁護士への相談を希望する場合、初回の法律相談（スポット相談）費用は事業内で補助が受けられます。但し、弁護士対応の相談案件等において、調査や書類作成等の実作業が発生した場合や2回目以降の法律相談についての費用は自己負担となります。

※法律相談範囲は、その場で即答できるような簡易な相談（判例や法令等の調査を要しないもので、民法、労働法、借地借家法等の一般的な法律問題）

◆相談指導員（窓口）

所 属	氏 名	電話番号（直通）
		☎048-530-
事務局長	近 藤 慶 一	7333
総務部長 兼 団体支援課長	加 藤 勝 勝	7356
事業部長	齊 藤 靖 靖	7345
総務課長	太 田 東 東	7335
団体支援課 指導官	松 沼 淳 也	7356
地域支援課長	矢 崎 岳 彦	7352
集落排水課長	綿 貫 達 也	7342
ため池保全課長	根 岸 健 一	7338
農村整備課長	根 岸 雅 善	7348

令和7年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要

土地改良区機能強化支援事業 施設・財務管理強化対策において実施した「令和7年度土地改良施設の診断・管理指導」について、本年度は定期診断・要請診断を合わせ延べ64地区、97施設の診断を行った。



<診断実施期間>

定期診断：令和7年7月～12月

要請診断：令和7年7月～8月を主として、必要な場合は期間外も実施

<診断対象施設>

基幹的な土地改良施設で、農業用施設機能を有するおおむね以下の施設。

種 目	ダ ム	頭首工	用排水機	樋(水)門	ため池	その他	水 路
受益面積	10ha以上						20ha以上

◎定期診断指導

県内の基幹的土地改良施設を対象（下表）に、竣工年度や過去の整備補修年度等から勘案し、当会で選定した施設の診断指導を実施するもの。（10年サイクル計画）

定期診断対象地区及び施設数（R6年度土地改良施設調査より）

区 分	土地改良区・市町村数			土地改良施設数							
	改良区	市町村	計	ダ ム	頭首工	用排水機	樋(水)門	ため池	水 路	その他	計
埼玉県全体	49	15	64	—	12	225	193	—	—	—	430
うち令和7年度 診断対象	23	8	31	—	2	21	20	—	—	—	43

※その他：水管理施設、除塵機など

◎要請診断指導

当年度定期診断指導施設以外の施設で、土地改良区等から要請のあった場合に実施するもの。

令和7年度 診断実施施設

(R7.12.25時点)

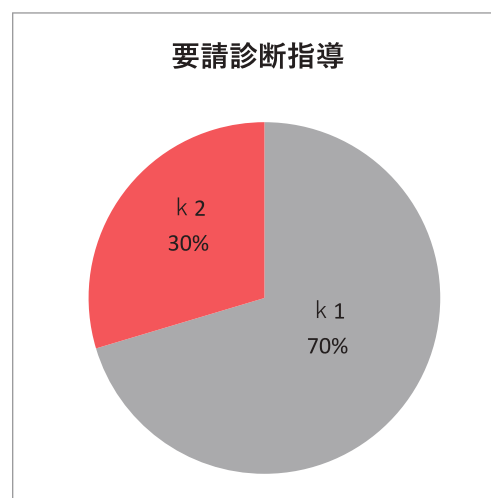
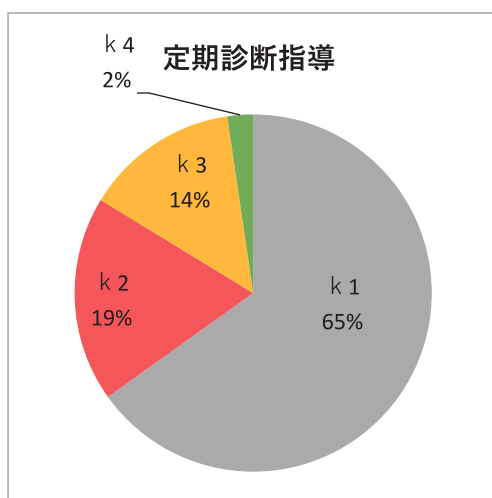
区 分	土地改良区・市町村数			土地改良施設数								指導 延日数
	改良区	市町村	計	ダム	頭首工	用排水機	樋水門	ため池	水路	その他	計	
定期診断指導	23	8	31	—	2	21	20	—	—	—	43	35
要請診断指導	22	11	33	0	2	30	9	0	9	4	54	36
計	45	19	64	0	4	51	29	0	9	4	97	71

※重複地区あり

※その他：水管理施設、除塵機

令和7年度 診断結果

総合評価	k1	k2	k3	k4	計
定期診断指導	28	8	6	1	43
要請診断指導	38	16	0	0	54
計	66	24	6	1	97



緊急度重大 (k1)	機能低下が著しく、早急に整備補修を要するもの
緊急度 大 (k2)	機能低下が見られ、整備補修の検討を要するもの
緊急度 中 (k3)	経年的な機能低下傾向にあり、計画的な整備補修の検討を要するもの
緊急度 小 (k4)	運用上支障はないが機能低下の兆候も出てきており、経過の観察を要するもの

本年度診断施設の適正化事業への加入計画予定状況 (R8新規加入に限る)

定期診断 43施設中、9 施設

要請診断 54施設中、21 施設

R7.12.25時点

男女共同参画推進大会inくまもと

去る11月4日（火）から11月5日（水）にかけて、都道府県水土里ネット女性の会会員を対象にした標記大会が開催され、241名の参加があった。

大会式典

■基調講演

テーマ「やる気スイッチは押しつ押しされつ」 講師：徳永 順子 氏

■パネルディスカッション

テーマ「誰もが活躍できる地域農業を目指して～水土里ネットの挑戦～」

コーディネーター：全国土地改良事業団体連合会土地改良研究所 所長 親泊 安次 氏

アドバイザー：徳永 順子氏（山川地区土地改良区理事）

パネリスト：大森 直樹 氏（熊本県農地整備課長）

酒瀬川 美鈴 氏（熊本県土地改良事業団体連合会理事）

田尻 千恵 氏（宇城市土地改良区、前くまもと水土里ネット女性の会会長）

松本 綾子 氏（長崎県土地改良事業団体連合会理事）

研修

■阿蘇コース

- ・熊本地震震災ミュージアム
- ・大切畑ダム
- ・阿蘇ミルク牧場



大会式典の様子



現地研修の様子

さいたま水土里ネット女性の会 現地研修会

さいたま水土里ネット女性の会は、11月20日（木）、活動計画の一環として現地研修会を実施し、土地改良区等の女性職員を合わせて22名が参加した。

研修では、茨城県にあるひぬま川土地改良区への訪問や、いばらき水土里ネット女性の会との意見交換会など充実した研修となった。

ひぬま川土地改良区では、関東農政局茨城中部農地整備事業所の吉川調査設計課長より、茨城中部地区の国営緊急農地再編整備事業の概要や田んぼダムの取り組みについてお話を伺った。その後、ホテルレイクビュー水戸にて、いばらき水土里ネット女性の会との意見交換会を行った。小グループに分かれ、「土地改良区の運営について」をテーマに活発に意見が交わされた。

参加者からは、「まだ活用できていない田んぼダムについて、また、現在進めている集約化について事業担当から話を聞いて良かった」「茨城県の色々な土地改良区の意見や現状を知ることができた」「貴重な意見交換が出来るととても良かった」などの感想をいただいた。一日を通して、田んぼダムの取組みや他県の土地改良区との意見交換等、新しい視点を学ぶことができた。引き続き、様々な学びを得られる機会として研修会を計画していきたい。



視察研修の様子



いばらき水土里ネット女性の会と記念撮影



意見交換会の様子



水土里ネット職員研修会

去る12月4日（木）から5日（金）にかけて、土地改良区職員を対象にした標記研修会が開催され、18名の方々にご参加いただきました。

研修

1 関川水系土地改良区

- ① 土地改良区の概要及び農業用施設の維持管理について
- ② ほ場の大区画化、スマート農業、V溝乾田直播について
- ③ ほ場、農業用施設の視察

講師：池田総務課長、松野整備副課長、武藤整備副課長

2 信濃川大河津資料館

- ① 「信濃川大河津資料館」の見学
- ② 大河津分水路、旧洗堰の視察（屋内より）

案内：榎本様



関川水系土地改良区



関川水系土地改良区内 ほ場



信濃川大河津資料館



大河津分水路（資料館内より）

研修を終えて

視察した関川水系土地改良区は、新潟県内でも有数の規模の土地改良区で、大区画化やスマート農業、乾田直播など先進的な取組を積極的に取り入れていると感じました。また、笹ヶ峰ダムを利用した小水力発電や、2015年に上江用水路が世界かんがい施設遺産登録されていたりと、様々な取組を実施している点も印象に残りました。

信濃川大河津資料館では、信濃川の一部を日本海へ流すことで、越後平野を水害から守る役割を担っていることを学びました。あれだけ大規模な水路を大型重機の無い時代に人の手で作ったことに驚いたのと同時に、大河津分水が今も近隣住民の安全を守っている大切な存在だと感じました。

2025ため池フォーラムinひろしま

令和7年10月23日（木）から24日（金）の2日間、広島県内において「2025ため池フォーラムinひろしま」が各都道府県や土地改良区の職員等を対象に開催され、本会からため池担当者が参加した。

今回で27回目となるため池フォーラムは、農業用ため池の防災・減災対策及び管理・保全に関する施策動向や先進事例を把握し、今後のため池の防災力強化につなげることを目的として「安全・安心 持続可能な農村地域のため池」をテーマに開催された。

1日目は広島市内のJMSアステールプラザ大ホールにて、ため池に関する基調講演や防災・減災対策に関する報告及び事例発表等があった。

2日目は現地見学として、備後三大池の一つで公園としても活用されている農業用ため池の春日池を視察した。

10月23日（木）

開会の辞	広島県農林水産局長 向井 雅史氏
開会挨拶	広島県副知事 山根 健嗣氏
来賓挨拶	農林水産省農村振興局整備部防災課課長 中藤 直孝氏 全国土地改良事業団体連合会会長 二階 俊博氏（代理：主任研究員 二神 健次郎氏） 広島県議会副議長 山下 智之氏
情報提供	「ため池管理保全法・ため池工事特措法の制定経緯等について」 全国ため池等整備事業推進協議会副会長 進藤 金日子氏
特別講演	「知らないと損する！天気と防災のコツ」 オフィス気象キャスター(株)気象予報士 岸 真弓氏
基調講演	「土砂災害防止機能も備えたため池への期待」 広島大学名誉教授 海堀 正博氏
情勢報告	「農業用ため池の防災・減災対策について」 農林水産省農村振興局整備部防災課課長補佐 浦田 憲氏
事例発表①	「広島県のため池総合対策について」 広島県農林水産局ため池・農地防災担当課長 中村 博氏
事例発表②	「広島県ため池支援センターの取組」 広島県ため池支援センター長 小谷 太志氏
事例発表③	「ため池防災における現状と保護・駆除対応について」 広島県土地改良事業団体連合会環境専門監 秋山 浩三氏
事例発表④	「簡易手法を用いた、ため池洪水算定と防災機能算定手法の紹介」 (公社)土地改良測量設計技術協会客員フェロー 千原 英司氏
次回開催県挨拶	岐阜県農政部長 若山 幸人氏
閉会の辞	広島県農林水産局農林基盤整備担当部長 楨原 敏幸氏

10月24日（金）

現地見学会 (備後コース)	春日池
------------------	-----



フォーラムの様子



春日池の視察

「2025 彩の国 食と農林業ドリームフェスタ」開催結果

埼玉県農林部農村整備課

令和7年11月15日（土）及び16日（日）に熊谷スポーツ文化公園（熊谷市）にて、「2025 彩の国 食と農林業ドリームフェスタ」が開催されました。

今回は昨年度同様に、熊谷市産業祭等のイベントとのコラボ開催ということもあり、2日間で約7万人が来場されました。

当日は県産農産物の販売や、農林水産業を紹介するブース等が多数出展され、大いに賑わいました。

県農村整備課と水土里ネットさいたまでは「埼玉県の農業農村整備事業を紹介する展示」として県農村整備課、各地域機関、水土里ネットさいたまが作成したパネルを展示するとともに、令和9年に開削300年を迎える見沼代用水をPRするパネル展示も併せて行いました。

パネルをご覧いただいた方々に埼玉県の農業農村整備事業に対する認知度等についてのアンケートをお願いし、ご協力いただいた方々には啓発グッズをプレゼントしました。

【会場の様子】



【アンケート結果】

2日間で、688名の方に回答していただきました。

「農業農村整備は必要だと思いませんか」の問いに対し、「思った」が91%と、大多数の方に好意見をいただきました。アンケートのご協力ありがとうございました。

◆寄せられたご意見、ご感想の一部◆

- ・水路やため池などの役割などたくさん勉強になりました。
 - ・安全な田んぼ・畑のために水は大切なので整備は必要と思います。
 - ・子供が4年生なのでリアルタイムで勉強になりました。
- など

見沼代用水って何？

見沼代用水は江戸時代中期の享保13年（1728年）に開削された農業用水路です。現在のさいたま市一宮川河川沿いにある「見沼代用水」は、江戸時代中期から明治時代にかけて、見沼代用水の役割を担った重要な水路と見なされています。

見沼代用水の歴史

- 今から約300年前に八代将軍徳川吉宗の命を受けた技術者**井澤弥惣兵衛為永**により開削されました。
- 当時の開削土木技術である「和州流」により開削中や開削後の土留めが実現されました。
- 農業用水でありながら埼玉県及び東京都の130万人を超える人口を潤す都市用水を生み出し続けています。
- 2006年（平成18年）に開水300年、2019年（令和元年）に**世界かんがい施設遺産**に登録されました。

見沼代用水に関わった人々

米将軍と呼ばれた改革の人 八代将軍 徳川吉宗

享保元年（1716年）享保は紀州藩主から八代将軍となりました。この頃の幕府は家康の死後より100年あまり経ち、水害や干ばつ、農業なる大失墜からの復興に資金が乏しく、財政を立て直しが必要でした。そこで吉宗は農業振興の策として「享保の改革」と呼ばれる政治改革を断行。その改革の一つが農業の増産を目的とした開削開水でした。

農業各所に存在した沼澤やため池を干拓し「米田」と変える——この工事のため吉宗が目を付けた人物こそが見沼代用水の開削者**井澤弥惣兵衛為永**です。

見沼代用水生みの親 井澤弥惣兵衛為永

開削開水を進めるため吉宗は出陣地の紀州から出陣者高島忠尚という土木技術者を呼び寄せました。高島忠尚は「和州流」と呼ばれる開削技術を持ってきており、その技術が「和州流」の技術者高島忠尚の功績を高く評価していたことがわかります。

高島忠尚の手伝いは**紀州流**と呼ばれ、それまでの自然を完全な放棄とは違い、積極的に自然を利用するといふのが特徴です。この技術が見沼代用水の開削には、干拓地「開削の地」として「和州流」の技術者高島忠尚、高島忠尚の孫、高島忠尚（神田川流）の多摩川開削なども多く行われています。

現在の見沼代用水は、農村地域—見沼田んぼ—都市圏地域を流れるそれぞれの地域に重要な水辺空間を創出しています。さいたま市の見沼田んぼエリアでは沿道に堰が築かれ、2019年には日本一の水辺の景観を創出しています。

見沼代用水は開削以後にも改修工事など四百年の歴史があり、キジやカワセミといった野鳥、サメキなどの野鳥や動物も生息しています。

また、都心からのアクセスが良く、水辺環境が良いため、ウォーキングやサイクリングなど多くのスポーツやレジャーが楽しめる。多くの市民が憩いの場としてだけでなく、自然環境の保全と共生の場として人々の生活に寄り添っています。

見沼代用水土地改良区作成パネル

第13回「彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト」

テーマ ～地域と共に歩むさいたまの水土里～^{みどり}

本会では、さいたま・川越・東松山・秩父・本庄・大里・加須・春日部の各土地改良推進協議会と共催し、第13回「彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト」を開催した。

埼玉県内の豊かな自然環境や美しい農村景観、そして農業の魅力を広く紹介し、多くの人々の関心を高めることを目的として「地域と共に歩む さいたまの水土里（みどり）」をテーマに作品を募集したところ、291点の応募が寄せられた。

審査は写真家・吉田功氏をはじめとする18名の審査員により厳正に行われ、水土里ネットさいたま会長賞1点、各土地改良推進協議会会長賞8点、入選10点、学生優秀賞、審査委員長特別賞が選出された。



吉田審査委員長



審査の様子



会長賞の皆様



入選・特別賞の皆様

表彰式は令和7年12月10日（水）本会大会議室において開催され、受賞者には表彰状ならびに記念品が授与された。

また、令和8年2月22日（日）から24日（火）の3日間、鴻巣市のクリアこうのす（鴻巣市文化センター）において入賞作品および応募作品の写真展を開催する予定である。



昨年度写真展
（さいたま市レイブロックホール）



今年度写真展会場
（クリアこうのす 2階展示コーナー）

第13回 彩の国 農業・農村景観 フォトコンテスト

写真展

地域と共に歩むさいたまの水土里

2026.2.22(日) - 2.24(火)
AM10:00~16:00

会場：クリア鴻巣（鴻巣市文化センター）
2階展示コーナー

入場無料
〒365-0032 鴻巣市中央2-9 水土里
文 庫 / 設備部 鴻巣駅(東口)徒歩15分
または免許センター行バス約5分
駐車場 / 140台

【主催】埼玉県土地改良事業団体連合会(水土里ネットさいたま)
【共催】さいたま土地改良推進協議会 川越土地改良推進協議会
東松山土地改良推進協議会 秩父土地改良推進協議会
本庄土地改良推進協議会 大里土地改良推進協議会
加須土地改良推進協議会 春日部土地改良推進協議会
【後援】埼玉県

水土里ネットさいたま 埼玉県土地改良事業団体連合会 TEL. 048-530-7356

受賞作品



水士里ネットさいたま会長賞
「収穫の秋」高澤 洋次
(撮影場所：横瀬町)

講評：広角レンズを上手に使いました。

この棚田は毎年募集されますが、この構図は珍しいですね。
手前の彼岸花、中景の天日干しの稲、遠景の盆地の集落。
空の部分を少なくしたことで、武甲山が高く農地も広く表現出来ました。



さいたま土地改良推進協議会会長賞
「刈り入の味わい」堀越 力男
(撮影場所：さいたま市)

講評：家族総出の収穫作業。今でもこういう光景が見られるのは懐かしいですね。刈り取られた後の稲の切り口や登場人物の衣装の時代背景、画面中央の白い帽子とテーブルの食器などのブレが不自然に思われるのが一考を要します。



東松山土地改良推進協議会会長賞
「収穫のよるこび」栗島 祥次
(撮影場所：東秩父村)

講評：人物を右上に小さく配して手前には、収穫の稲束のスペースを大きくしたことので今の豊作が伺えます。元気に働く高齢者らしい農夫に、いつまでも健やかにという思いと埼玉の未来の農業に不安も感じました。



川越土地改良推進協議会会長賞

「夕景」石井 祥子

(撮影場所：川越市)

講評：落日の太陽を画面に入れたい工夫が成功しました。手前の小川や橋、草などが黒くつぶれることなく質感が出ました。水面の夕景や早苗の発育状況も表現されて良かったですね。画面左下に草地のスペースを大きくしたことで安定感が出ました。



秩父土地改良推進協議会会長賞

「実りの棚田」町田 正雄

(撮影場所：横瀬町)

講評：柔らかい光で撮れたのが良かったですね。黙々と稲刈りに精を出す農夫の様子が表現されました。米価の影響、増産か減反か、後継者の問題など脳裏を過ることもあるでしょうね。望遠レンズを使用したことで手前の花が過度にボケて人物が浮き上がって成功しました。



本庄土地改良推進協議会会長賞

「種まき日和」橋本 実奈枝

(撮影場所：神川町)

講評：広角レンズを使用して広々としてのどかな農業風景を捉えました。左端の男性が手にしている容器と土に種を植えている場面にタイミングを逃さずシャッターを切ったことが、この作品を強くしました。構図的にも良くまとまっています。



大里土地改良推進協議会会長賞

「みんなでダイエット中」飯川 逸彦

(撮影場所：深谷市)

講評：田んぼの大根干しは珍しい。ダイエットに見立てた発想も面白い。鉄塔をやや右に、干された大根の左端の終わりを見せない構図は、かなりベテランです。残念なのは青い空に青い雲、それに遠方の青空はもっと白っぽくならないのが不自然でした。



加須土地改良推進協議会会長賞

「冬仕度」柴崎 治

(撮影場所：行田市)

講評：北海道を連想させるような広大な農地ですね。広角レンズの効果絶大です。大きなロールが2個。ここに安定感があります。右奥の小さなロールが作品の補助的役割を果たしています。県内にもこんなスケールの大きな風景があることを認識しました。



春日部土地改良推進協議会会長賞

「帰路は夕焼け」森 卓廣

(撮影場所：春日部市)

講評：撮影条件が揃いました。明るさをなくして沈む太陽、水田の映り込み、家路を急ぐ自転車の人。太陽の位置が高かったら中ほどのあぜ道がつぶれたり、手前の早苗がこれほど存在感を見せなかったでしょうね。時間帯を考えて我慢しながら撮った作者に拍手。



審査委員長特別賞

「あわゆきの茶園」金子 ひろみ
(撮影場所：入間市)

講評：作者はこの時を待っていたのでしょうか。茶畑の横のライン、端の曲線、立木の有様など画面構成がしっかりしていて、安定感があります。雪が降っている様子まで捉えたのはイメージどおりだったのでしょうか。日本画を見ているようでした。



学生優秀賞

「水田に映る光」関口 実花
(撮影場所：久喜市)

講評：自然風景をよく観察していますね。朝夕の昇陽や落日には、惹きつけるものがあります。空の色の变化や水面に映り込む濃淡。太陽の位置がもう少し低いと家並みの様子まで撮ることが出来ました。空も水面ももっと変化しますよ。

入選



「田の草焼き」
堀之内 稔 (撮影場所：蓮田市)



「選繭される2025年の春蚕繭」
野原 清 (撮影場所：秩父市)



「来年も来るよ」
櫻井 文夫 (撮影場所：草加市)



「ジャガイモまき実習」
浅野 晃市 (撮影場所：飯能市)



「入道雲」
長 洋弘 (撮影場所：吉見町)



「棚田好日」
須藤 康男 (撮影場所：横瀬町)



「幸せ梨の収穫」
武内 道直 (撮影場所：神川町)



「早朝に補植」
斉藤 重利 (撮影場所：深谷市)



「ふるさとの香」
酒井 真美子 (撮影場所：行田市)



「天高く」
大山 敏 (撮影場所：杉戸町)

農業基盤整備資金の金利改定について

令和8年1月20日付けの株式会社日本政策金融公庫及び沖縄振興開発金融公庫の農業基盤整備資金の金利改定について、下記のとおりお知らせします。 ※下線部に変更あり

区 分	改 定 前					改 定 後				
	融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）				融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）			
		5年	10年	15年	20年		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	2.35	—	—	—	—	<u>2.65</u>	—	—	—	—
団体営補助残	2.20	—	—	—	—	<u>2.50</u>	—	—	—	—
非補助一般	2.20	—	—	—	—	<u>2.50</u>	—	—	—	—
非補助利子軽減	2.20	—	—	—	—	<u>2.50</u>	—	—	—	—
災害復旧	—	1.35	1.65	2.05	2.20	—	<u>1.55</u>	<u>1.95</u>	<u>2.25</u>	<u>2.50</u>

お問合せ先 水土里ネットさいたま 事業部農村整備課担当 根岸 TEL 048-530-7348

連合会日誌

開催日	会議・行事	開催地	
10月	6～10日	土地改良区機能強化支援事業施設管理研修	さいたま市
	14～16日	全国土地改良大会佐賀大会	佐賀県
	22日	関東一都九県第2回事務責任者会議	さいたま市
	23～24日	ため池フォーラムinひろしま	広島県
11月	3～5日	男女共同参画推進大会	熊本県
	7日	農業農村整備事業に関する説明会（予算キャラバン）	さいたま市
	10日	本会第4回監事会及び第3回理事会	熊谷市
	12日	関東一都九県 国への要望活動	東京都
	13～14日	農業集団化推進協議会 現地研修会	新潟県
	15～16日	2025彩の国 食と農林業ドリームフェスタ	熊谷市
	17日	埼玉県知事への要望活動	さいたま市
	18日	埼玉県農業集落排水事業連絡協議会先進地視察研修会	吉見町
	20日	さいたま水土里ネット女性の会現地研修会	茨城県
	26日	農業農村整備の集い	東京都
27日	土地改良区運営基盤強化推進研修	東京都	
12月	4～5日	水土里ネットさいたま職員研修会	新潟県

